20230226　　猪高の森自然観察会　2023 年 2 月報告書

猪高の森自然観察だより　2 月号

開催日時：2023 年 2 月 26 日（日）　　9：30～12：00
天候：晴　　気温：最低 0.4℃、最高 10.4℃（名古屋に於いて）
テーマ:カエルの産卵とほころび始めた木の芽たち
参加者構成：一般 24 名（内 NACS－J 指導員 3 名、幼児（2 歳）1 名、児童 3 名）
コース:森の集会所 → シダレザクラの里 → こもれび池 → ハンノキ湿地 → 井堀の棚田
→ 井堀下池 → 森の集会所

スギ花粉の飛ぶ季節が始まりました。寒暖を繰り返しながらそれでも徐々に暖かくなり、この日は快晴で暖かく、御嶽山も良く見え、絶好の観察会日和でした。

塚ノ杁池では、コサギ、ダイサギ、アオサギ、オオバン、カイツブリ、カワセミなどが姿を見せてくれました。フィールドスコープを使って拡大した鳥たちに、参加者の皆さんは大喜び。

そんな感じで始まった観察会でした。

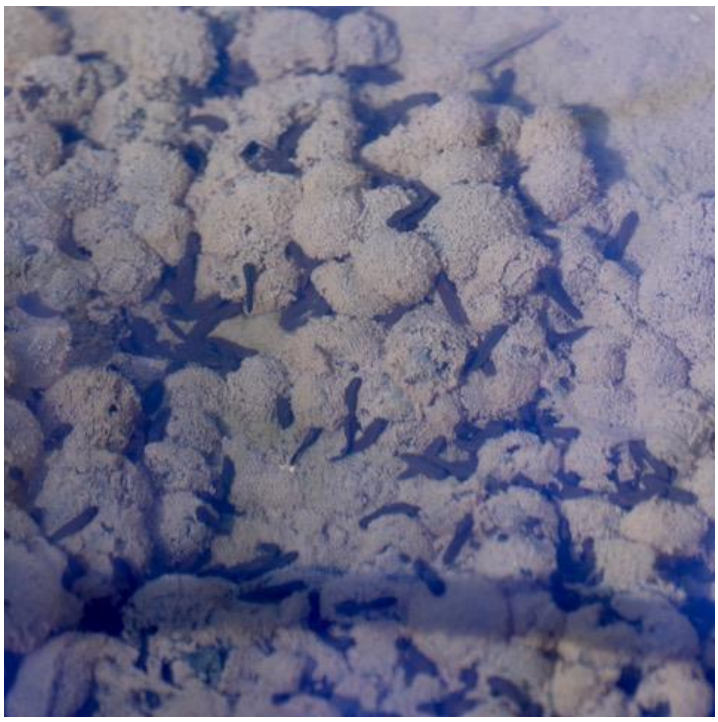
（画像は猪高緑地外で撮影したものを含みます。左上の**ヤブツバキ**は井堀上池付近にて）

〇ニホンアカガエルの産卵があちこちで見られます

ニホンアカガエルは多くの都府県で絶滅危惧種や準絶滅危惧種に指定されているカエルです。愛知県では県としては指定されていませんが、2020 年の名古屋市版レッドリストでは「絶滅危惧ⅠA 類」に指定されており、大事に見守っていく必要があります。

日本で最も早く産卵をするカエルです。なぜ、春まだ寒い時期に、低温では動けないはずの両生類であるカエルの仲間が産卵できるのか、何にでも例外はあるようです。この時期に産卵することによって、捕食者であるほかの生き物が活動し始める前に、卵が孵り活動を始めます。今年は 1 月 20 日に初めの確認がされました。

今日は、シダレザクラの里のドーナツ池、こもれび池、棚田、井堀下池などで確認が出来ました。産卵から約 2 週間で孵化とのことで 1 月 20 日に確認されたこもれび池では孵化し、オタマジャクシが見られました。



左は、孵化したこもれび池の卵塊です。黒くみえるのが、生まれたばかりのオタマジャクシです。

卵塊には500～3,000個の卵があるとされています。

○カワヅザクラ（河津桜）が咲き始めました。

２月17日にシダレザクラの里と井堀の棚田にて開花を確認しました。すでに5～6輪は咲いていましたので、開花宣言はもうすこし早くなりそうです。

原木は1955年静岡県賀茂郡河津町田中の飯田勝美氏（故人）が２月のある日、河津川沿いの雑草の中にて 1mほどの原木を発見し、庭先に植えたところ、1966年から開花をはじめ、1974年に「カワヅザクラ（河津桜）」と命名されました。

この桜は、「**オオシマザクラ**と**カンヒザクラ**の雑種にさらにカンヒザクラが交雑した種で、本来、本州の野生の桜は、花粉を運ぶ虫たちのいない冬には咲かない仕組みがあるが、本州に自生していないカンヒザクラが交雑することによって早咲きの性質が生じている」と考えられています。

〇春の草たちも活動しつつあります。

ロゼット（※）と言われる状態で冬を越している種類、はじめから茎を伸ばして開花の準備をしている種など様々です。花が咲いてなくても、おおよそ見分けられるようになるとまた、楽しみが増えるでしょう。

ミチタネツケバナ
ロゼットから花茎が伸びている

タンポポのロゼット

ハルジオンのロゼット

※ロゼットとは茎の節間が成長しないか、極端に短くなったために、根際の葉が放射状に地中から直接出ていること、または、それに近い状態を言います。その様な葉を根出葉と呼び、個々の葉をロゼット葉とも言います。この時期にロゼットを作る利点は寒さに耐えられるように地表に張り付き、しかも太陽光線を十分受けられることです。

ホトケノザ
春の七草のホトケノザとは別種です

咲き始めた春を迎える花たち

オオイヌノフグリ
別名：ホシノヒトミ

カラスノエンドウ

ヒメオドリコソウ

セイヨウタンポポ

ナズナ

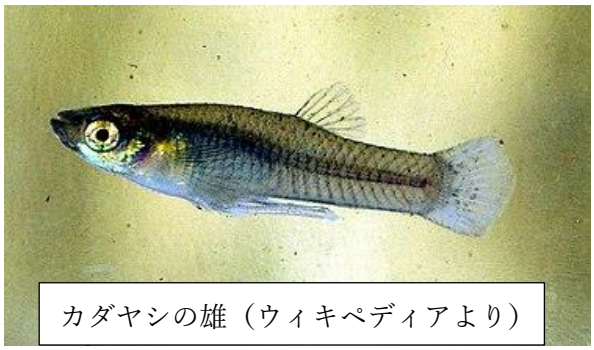
スズメノカタビラ

ツクシ（３月４日棚田にて）

○「メダカ池で起きたこと」に新しい解説板がつきました。その板には・・。

棚田から井堀下池の間にあるメダカ池には、かつて**メダカ**がたくさん住んでいました。でも、今は一匹もいません。メダカによく似た**カダヤシ**という魚がいるだけです。誰かがカダヤシをメダカ池に入れたために、メダカが住めなくなってしまったのです。

生き物たちを他の場所から運び入れたり、逃がしたりしないでください。一度家で飼った生き物は、家庭での細菌やウイルス、病気などが付着している可能性があるので、採った場所だからといって逃がしたりしないでください。そこに住んでいる生き物たちが命をつなげなくなります。



カダヤシの雄（ウィキペディアより）

飼い始めた生き物たちは最後まで、責任を持って面倒を見てください。

○スギの雄花はひとつで４０万粒？

スギ花粉の飛散がピークを迎えつつあります。
樹齢２５年以上のスギが開花を始めるとのことです。

左は雄花の開花状況、右は雄花の房の拡大図です。赤い丸はひとつの雄花です。

なんとこの雄花のひとつから４０万粒もの花粉がでるとのこと。
風媒花ならではの飛散量とは思いますが、なんとも膨大な粒数です。

○途中、クズのかわいい（？）葉痕を見たり、クスノキの葉の香りを楽しみ、ヨコヅナサシガメの集団越冬、カクレミノの実、膨らんできたミヤマガマズミの花芽、タラの芽なども観察しました。春は進み、３月４日にはウグイスの初鳴きが聞かれたとのことです。

○この時期の猪高の森は、以下のたよりでも紹介しています。ご覧ください。

http://sizen.ciao.jp/observation/20220123itaka.pdf
http://sizen.ciao.jp/observation/20220227itaka.pdf
http://sizen.ciao.jp/observation/20230122itaka.pdf

テングチョウ
３月４日暖かい日差しに出てきました
成虫で越冬します。

次回の観察会は　３月 26 日（日）森の集会所集合　9：30～　です。